

免許取得直後の薬剤師を対象とした  
病棟業務等に係る総合的な研修プログラム

令和6年(2024年)4月

香川大学医学部附属病院

## 1. 研修理念・基本方針

### <理念>

薬剤師としての人格を涵養し、一般的な疾病の基本的な薬物療法を理解し、その有効性と安全性を最大とするための薬学的管理に対応できる薬剤師を育成する。

### <基本方針>

- (1) 将来専門とする分野や進路に関わりなく、チーム医療の実践力など全ての薬剤師が身に付けるべき基本的臨床能力と専門性、Pharmacist-Scientist としての科学的思考力の修得を目標とする。
- (2) 将来のキャリアパスなど研修薬剤師の個別なニーズに柔軟に対応した研修プログラムを提供する。
- (3) 薬剤部職員全員および必要に応じてその他の医療従事者をはじめとする病院職員研修教育に参加する。

## 2. プログラムの目的と特色

前期研修(6カ月)としてセントラル業務、後期研修(6カ月)として病棟業務を中心に習得する。なお、既卒者で十分な臨床実務経験を有する場合は、後期研修からの参加も可能とする。

- (1) 前期研修プログラムの目的は「薬剤師としての基本的な臨床能力と専門性を修得すること」である。そのため、薬剤部内でのセントラル業務研修として、すべての薬剤師が身に付けるべき基本的臨床能力の習得を目標として、薬剤部各室をローテートし、以下の内容を習得する
  - ・内服・外用・注射剤の調剤(麻薬・毒薬・向精神薬の管理、処方監査を含む)
  - ・無菌製剤処理(レジメン監査を含む)
  - ・医薬品情報管理
  - ・手術室及び集中治療室等における薬学的管理
- (2) 後期研修プログラムでは、内科系および外科系病棟を含む病棟及び外来化学療法、術前外来業務を経験するとともに、各医局で行われる症例検討会やカンファレンスに参加する。これらの研修を通して、一般的な疾病の基本的な薬物療法を理解し、その有効性と安全性を最大とするための薬学的管理に関する知識と技能の習得を目標として、以下の内容を習得する。
  - ・外来患者の薬学的管理(外来化学療法を実施するための治療室における薬学的管理等)
  - ・入院患者の薬学的管理(薬剤管理指導、病棟薬剤業務、入院時の薬局との連携を含む)
  - ・薬剤の血中濃度測定の結果に基づく投与量の管理

### 3. プログラムの管理運営のための組織と責任者

香川大学医学部附属病院薬事委員会の定める方針に則り、香川大学医学部附属病院薬剤部がプログラムの管理、研修計画の実施、研修者および指導薬剤師・指導体制の全ての面に責任を持つ。

#### (1) プログラム責任者 小坂信二(薬剤部教授・薬剤部長)

役割: 薬剤師研修プログラムを統括し、年間を通じて研修者指導に責任を持つ指導薬剤師(以下、メンター)を薬剤部職員から任命する。また定期的に研修者と個別の面談を実施し、各研修者の研修過程を把握すると共に、個々のキャリア形成を促す。

#### (2) 研修管理者 田中裕章(副薬剤部長)

役割: 研修プログラムが円滑に実施されるよう研修の管理を行う。研修者およびメンターの精神的負担や体調管理に配慮し、必要に応じ助言やフィードバックを行う。研修期間内に各カリキュラムで定める到達目標が達成できるよう総合的な支援を行う。

#### (3) 薬剤師教育 WG(薬剤部員より複数名選出)

役割: 薬剤部職員の中から適切な職員をメンターとして選出し、プログラム責任者へ推薦する。研修カリキュラム、評価方法について定期的に見直し、プログラム責任者へ提案する。研修者の研修継続が困難となった場合は、研修管理者は本 WG に諮り、対応を検討したうえでプログラム責任者へ報告する。

#### (4) メンター

研修者 1 名に対してメンター 1 名を配置する。

役割: 担当する研修者が指導薬剤師と良好な関係を構築できるよう両者を支援すると共に、症例報告の作成を管理する。また担当する研修生が適切な臨床研究が実施できるよう支援すると共に、成果報告会や学会に向けてスケジュール管理をする。

### 4. 研修実施要項

#### (1) 実務編

病院薬剤師としての基礎と業務を身につけることを目的とする。研修者は、薬剤部全体のオリエンテーションののち、各部門をローテーションし、所属部署以外の業務として製剤室で無菌調製・抗がん剤調製業務、薬剤管理指導室で病棟業務などを実践のなかで学ぶ。

研修者は、まず調剤室または注射室所属となり、それぞれの業務を習得する。7 月に居残り業務(平日日勤後 17:15-19:00 間の当直者と 2 人体制業務)、10 月に土日祝日の日直業務に入る。

(イメージ図)



## (2) 講義編

新人薬剤師を対象に各専門領域についての講義(月1回)を行います。病態や薬剤に関する基礎知識の習得を目的とし、4年目以降の薬剤師が講師となります。

(例)

| 開催日 | テーマ     | 開催日 | テーマ       |
|-----|---------|-----|-----------|
| 7月  | 概要      | 12月 | NST       |
| 8月  | プレアボイド  | 1月  | 糖尿病       |
| 9月  | 麻薬      | 2月  | 循環器       |
| 10月 | 抗がん剤    | 3月  | TDM(薬物動態) |
| 11月 | 排尿ケア・眠剤 |     |           |

## (3) その他

毎週月曜日、論文紹介や症例検討を目的とした勉強会を薬剤部内で行う。研修者においても研修終了後発表を担当する。

## 5. 研修の評価

別添の資料に基づき、1年間の研修期間を通じて各目標に対する研修生の達成度を評価したうえで、次年度以降の業務の参考とする。

## 6. 問い合わせ先

〒761-0793 香川県木田郡三木町大字池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院薬剤部

TEL 087-898-5111 FAX 087-891-2318

(参考)

- ・「医療機関における新人薬剤師の研修プログラムの基本的考え方」(一般社団法人日本病院薬剤師会)
- ・「薬剤師臨床研修ガイドライン」(厚生労働省 令和6年3月)

令和6年5月30日(第1版)

(別添)

| 氏名：         |                                                                                                                           |                                                                                                                                                    |                                                                                                                                             |                                                                                                                  |     |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 到達度         | 4                                                                                                                         | 3                                                                                                                                                  | 2                                                                                                                                           | 1                                                                                                                | 0   |
| 調剤室         | 指示書に記載されないことで疑義照会できた。                                                                                                     | 機器のトラブル時的確に対処できた。                                                                                                                                  | レブラミド®、ボマリスト®、サレド®、プレグランディン坐剤の払い出しや返却について指導できた。                                                                                             | ・基本的な業務を習得し、当直・日直業務が行えるようになった。<br>・指示書に記載されている事項を疑義照会できた。                                                        | 未経験 |
| 注射薬補給室      | 室長不在時に他部署と連携して注射薬業務を円滑に行うことができた。                                                                                          | マスタメンテ時のテストオードなど、室長の業務のサポートを自主的にできた。                                                                                                               | ・ビッカー故障時・停電時などにユヤマや各部署と連携して対応することができた。<br>・配合について、自分で調べることができ、病棟看護師等へ適切なルート選択を提案できた。                                                        | ・基本的な業務を習得し、当直・日直業務が行えるようになった。<br>・キュービックスを含めた発注業務を行うことができた。                                                     | 未経験 |
| 麻薬室         | 手術部での薬剤業務ができるようになった。                                                                                                      | PCAポンプの調製ができ、画像鑑査でセントラルの薬剤師とダブルチェックができるようになった。                                                                                                     | 手術使用薬のセットができるようになった。                                                                                                                        | 麻薬の調剤、管理が適正に行えるようになった。                                                                                           | 未経験 |
| 製剤室         | ・専門および認定を意識したがん化学療法への関わりができていた。<br>・他職種に対して抗がん剤などのハイリスク薬の教育、薬剤選択・支持療法の提案を自ら行うことができた。<br>・添付資料の内容を把握し、適正なレジメン登録を行うことができた。  | ・レジメン内容および患者情報から抗がん剤投与の妥当性を評価することができた。<br>評価内容について他の薬剤師と共有し、実施の可否を相談することができた。<br>・レジメン登録の入力を行うことができた（登録内容の評価は問わない）。<br>・実習生にTPNや抗がん剤に関わる業務の指導ができた。 | ・レジメンオーダーシステムの操作を理解できている（ロック解除、実施入力とその解除、取消と中止、日挿入など）。<br>・抗がん剤調製の必要量・抜き取り量の計算および監査ができた。<br>・院内製剤を調製することができた（調製手順の確立を含む）。                   | ・準備された抗がん剤および栄養輸液を処方内容に従って混注することができた。<br>・時間外業務におけるレジメン処方の調剤・仕分けができた。<br>・院内製剤の請求・払い出しについて経験した。                  | 未経験 |
| 医薬品情報室      | ・1～3の業務に加え、医師からの問い合わせ、要望に柔軟に対応できた。<br>・PMDAへ副作用報告ができた。                                                                    | ・出荷調整、出荷停止採用薬の代替が検討できた。<br>・採用薬のオードを止めるタイミングを該当部署と検討できた。<br>・薬事委員会の資料作成、後発医薬品の選定の準備ができた。                                                           | ・診療科からの問い合わせの対応ができた。<br>・MRから情報提供を受け、内容を該当部署で共有できた。<br>・必要に応じて院内情報webで情報発信できた。<br>・学生実習のスケジュールを作成した（他部署の専門講義の日程調整）。<br>・薬事委員会のスケジュール作成ができた。 | ・データベースで過去の問い合わせ内容を確認できた。<br>・部内勉強会のスケジュールをMRと調整できた。<br>・病名禁忌チェックリストを月一回作成し診療科、部内に配布できた。                         | 未経験 |
| 薬務室         | ・各室と連携し、高額薬、特殊流通薬品の情報収集・手配ができた。<br>・仮採用薬のうち、新規契約案に関して非常時の即の選定を含めた手配ができた。<br>・用度第二係、医事係と必要な連携がとれた。<br>・物流システムの新規マスタが作成できた。 | ・キュービックスの運用について提案できるようになった。<br>・新規採用における全体の流れが理解でき、説明できるようになった。                                                                                    | ・緊急度に合わせた緊急発注ができた（到着時間の調整など）。<br>・各部門からの請求に対する問い合わせに対応できた。<br>・採用薬、非採用薬の契約状況を確認できるようになった（マスタを確認できる）。                                        | ・定期発注の締め処理、検品、納品処理ができた。<br>・臨時発注の締め処理、検品ができた。<br>・請求に対して払い出しができた。<br>・常備薬チェックの実施と、結果の入力ができた。                     | 未経験 |
| 治験薬管理室      | GCPを熟知し、変更の進む治験方式に対応できるよう当院の治験業務手順を構築する。                                                                                  | GCPを理解し、治験担当業務の当院共通手順を構築・再検討する。                                                                                                                    | GCPに基づきCRA等と協議し、各治験における担当業務を有効かつ効率的な手順にて実施する。                                                                                               | CRA等の指示により依頼者より求められる治験担当業務を一通り実施できる。                                                                             | 未経験 |
| 試験研究室       | ・放射性医薬品の取扱いについて薬剤部内・外で指導することができた。<br>・感染ラウンドに参加し、抗菌薬適正使用について意見し、多職種で議論できた。<br>・感染部門システムのマスタメンテナンスを行うことができた。               | ・関係部署と協力して、採用抗菌薬の見直しに携わることができた。<br>・TDMの実施件数などをまとめ、委員会等で報告することができた。<br>・PETの検定方法を熟知し、新人等に指導することができた。                                               | ・感染部門システムの使用方法を理解している。<br>・感染ラウンドに参加し、薬剤部に情報をフィードバックできた。<br>・PETの無菌試験不合格時に適切な対応をとることができた。                                                   | ・届出抗菌薬の対象患者一覧を印刷することができた。<br>・PETローテーションを作成することができた。                                                             | 未経験 |
| 薬剤管理指導室     | ・どの疾患に対しても、その状況に応じた指導ができ、医師への処方提案が可能。<br>・複数の病棟を経験し、医師・看護師から指名され相談された。病棟薬剤師の立場から、チーム医療にも貢献し、医療安全にも寄与した。                   | ・自分が指導することで、患者のアドヒアランスが向上した。<br>・医師とのカンファレンスに出席して、薬物療法について、提案できた。                                                                                  | ・薬剤の問題点、副作用などに対して、能動的に多職種へ情報提供できた。<br>・自発的に疑義照会をして、カルテに記録を残せた。                                                                              | ・持参薬の鑑別を含め、入院患者の初回面談が実施できた。<br>・服薬指導を実施でき、薬剤管理指導記録を適切に記載できた。                                                     | 未経験 |
| 医療安全管理部     | ・インシデント・ブレイクアウツ事例の分析・対策立案・フィードバック・評価ができた。<br>・医療安全管理者養成研修を受講して、医療安全管理者の資格を取得                                              | 医療安全の考え方や実際について職員や学生に教えることができた。                                                                                                                    | ・疑義照会後のテンプレート入力、ブレイクアウツ報告を行うことができた。<br>・インシデント発生時にリスクマネージャー・GRMに相談し、対応することができた。                                                             | ・院内の安全管理研修を期日までに受講できた。<br>・インシデントレポートを入力し、報告することができた。                                                            | 未経験 |
| 感染制御部       | ・抗菌薬のスペクトラムを理解し、De-escalation等の抗菌薬適正使用支援が実施できた。<br>・ガイドラインに基づいた術後感染予防抗菌薬の適正性を判断し、介入する事ができた。                               | ・感染対策室の環境ラウンドにて指導された内容を理解し、薬剤部内の環境整備において中心的な役割を担うことができた。あるいは、病棟に対して必要な助言を行うことができた。                                                                 | ・ガイドラインに基づいた抗菌薬のTDMを実践する事ができた。<br>・抗菌薬のアレルギーがあるかたへの抗菌薬の代替薬を提案する事ができた。                                                                       | ・院内感染予防マニュアル（標準予防策や接触感染予防等）について理解し、病棟で適切に実践する事ができた。<br>・院内の抗菌薬マニュアルについて理解する事ができた。<br>・届出抗菌薬の用法用量、相互作用を確認する事ができた。 | 未経験 |
| チーム医療・認定薬剤師 | 専門薬剤師の取得                                                                                                                  | 専門領域の認定薬剤師の取得                                                                                                                                      | ・院外のチーム関係者との交流・意見交換することができた。<br>・チーム医療のメンバーとなって活動している。<br>・病院薬学認定薬剤師の取得                                                                     | ・院内のチーム医療について理解できている。<br>・認定薬剤師の取得条件について理解できている。                                                                 | 未経験 |
| 臨床研究        | ・自分で論文投稿することができた。<br>・科研費の申請をすることができた。<br>・後輩への研究指導を行うことができた。                                                             | ・研究の中心者として研究計画を立案した。<br>・倫理委員会への臨床研究の申請をすることができた。<br>・国際学会での発表を経験した。                                                                               | ・先輩の指導の下、スライド・ポスターを作成することができ、学会にて発表を経験した。                                                                                                   | ・学会に参加し、情報収集することができた。<br>・出張・立替払いに必要な書類について理解できている。                                                              | 未経験 |